

Title	高齢者ケアシステムの新機軸-豊かで活気ある高齢社会のために-
Sub Title	
Author	魚谷宜弘(Uotani, Yoshihiro) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第983号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0983

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

魚谷 宜弘

(安田火災海上保険株式会社)

主査 田中 滋

副査 藤枝 省人

高木 晴夫

所属

田中 滋 研究室

高齢者ケアシステムの新機軸

—豊かで活気ある高齢社会のために—

我国に訪れるであろう高齢社会について考えるとき、目標を何に置くかによって、社会の理想像は大きく異なると思われる。ここでは、『豊かで活気ある高齢社会』の実現を目標とし、実現の必要条件として、①老人が能力・意欲に応じ自立し社会に参加でき、②家族が介護に縛られないような社会システムを想定する。そのためには、『介護』という狭義のサポートでは不十分であり、新たに『高齢者ケア（システム）』と呼ぶべきサポートが必要となる。さらに、様々な行動主体が、何らかのルールに則って、『高齢者ケア』の“費用保障”や“供給”という役割を遂行する必要がある。本研究では『高齢者ケア』に対する“費用保障（経済保障）”面に限って検討を行う。

今後の30年間で我国の年齢構造は大きく変容する。その際、各行動主体に対する社会政策は、現在の最適化もしくは将来の最適化を目指すものの2通りに分かれる。これらは互いに背反ではないため、限られた予算の中でも、ある程度の両立の可能性があるが、実際には社会政策の選択肢は、①現在の最適化、②将来の最適化、③現在の最適化と将来の最適化の両立、という3者が存在する。“費用保障”に関しても同様の選択が考えられるが、私的保険の在り方は、公的保障がどの選択肢を選ぶかによって大きく左右される。そこで初めて、選ばれた選択肢に適した私的保険の在り方を具体的に検討できることになる。